



長期留学体験談（スペイン語圏）

2024年度 サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学（スペイン）

M.Y.(史学科 2024(R6)年度留学)

スペインでの留学を通して、特にコミュニケーション力が向上したと感じています。到着後すぐに学部授業が始まり、授業の内容についていくことができず、普段の生活でも日本人が全くいない環境に始めは不安を感じました。言語の壁を非常に感じ、どのように話しかけたらよいか分からず、大学では学生たちが大人数で固まっているため、話しかけることができませんでした。ですが、寮では昼食と夕食は皆で食べるため、自然と会話をする機会があり、始めは何を話しているか分からない時がありましたが、普段から挨拶をすることや単語だけでもわかることを答え、分からなかったときは聞き返すようにして、少しずつでも会話をするようにしていました。しばらく経つと、少しはスペイン語で会話ができるようになり、寮の友人たちと買い物に出かけたりお茶をしたり、日々の話や日本の話をするなど関係を深め、また積極的に話しかけたことで大学でも友人ができ、また友人の友人やご家族、寮の先生のご友人など幅広い年代の方と知り合うことができました。この経験から、自ら積極的に交流をもつことで言語や文化の異なる人とも仲良くなっていくことができることを学び、コミュニケーションの大切さ感じました。

ほかにもスペインならではのクリスマスや聖週間などの行事にも多く参加することができ、また普段の生活の違いにも触れ、海外で生活することの大変さを感じつつも、困難な出来事に直面したときにどう対処していくかということも学びました。

留学を通して得られた語学力やコミュニケーション力、様々な場面における対応力、そして史学部の授業で学んだことを、日々の生活やお仕事の中で活かしていきたいです。